

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

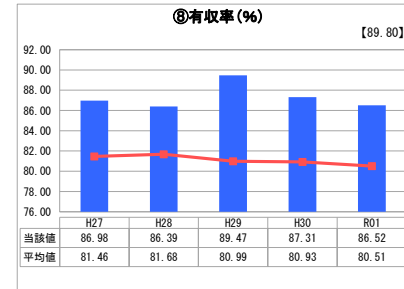
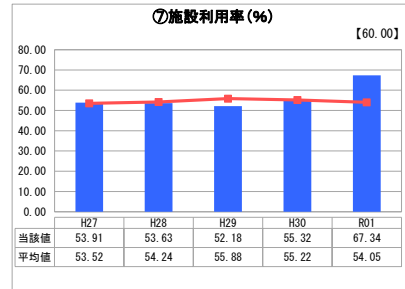
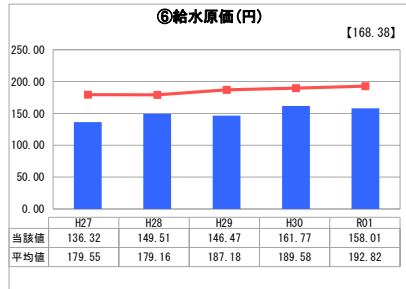
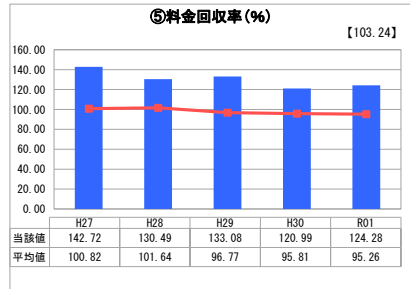
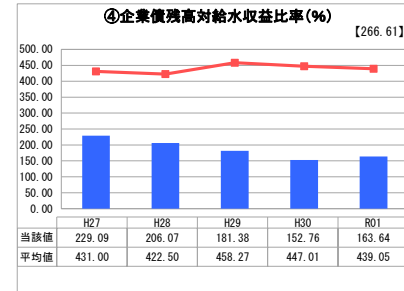
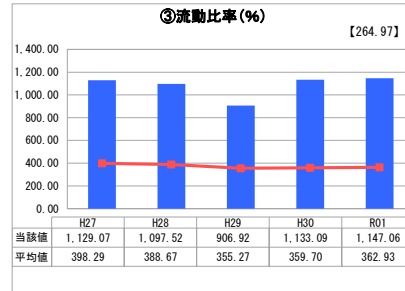
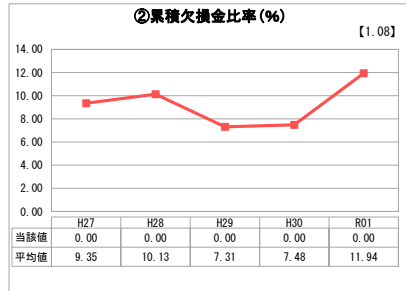
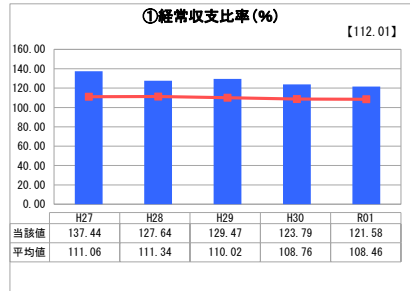
岡山県 新見市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	91.03	46.54	3,740	

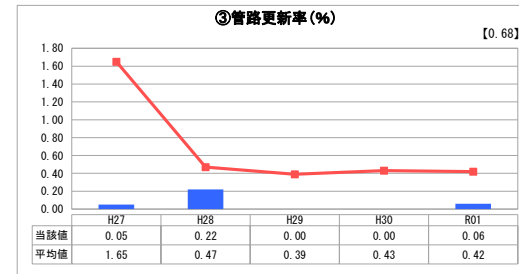
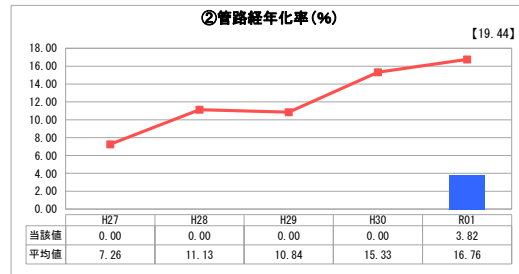
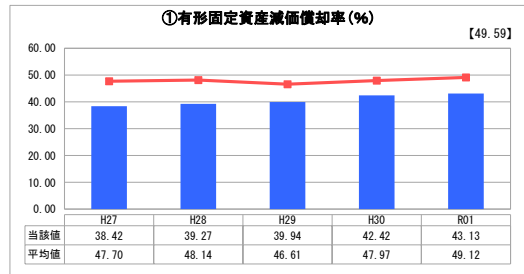
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
29,069	793.29	36.64
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
13,396	15.78	848.92

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率は単年度の黒字を示す100%を超えているが、給水収益は減少傾向にある。今後も更新投資等に充てる財源を確保しつつ健全経営に努める。
- ② 累積欠損金は発生していないが、簡易水道事業との経営統合により、施設の維持管理経費の増大が見込まれるため、より一層の営業活動の効率化に努める。
- ③ 本年度は健全な数値であるが、令和2年度以降、簡易水道との経営統合により、企業債の償還が著しく増加することで流動負債が上昇し、経営を圧迫することが見込まれる。しかしながら、繰出基準による一般会計からの補助金収入により、現金の減少は若干抑えられる。
- ④ 企業債残高対給水収益比率について、類似団体と比較して低くなっているが、令和2年度以降、簡易水道との経営統合により、企業債残高が著しく増加する見込みであり、類似団体並、若しくはそれ以上の比率になると予測される。
- ⑤ 料金回収率は基準の100%を超えているが、更新投資等に充てる財源を確保しつつ、健全経営に努める。
- ⑥ 類似団体と比較しても約30円程度安い状況となっている。
- ⑦ 施設利用率は、配水能力が減少したことにより上昇している。
- ⑧ 有収率が昨年度比で低下したため、引き続き漏水調査を実施し、有収率の維持、向上を図っていくたい。

### 2. 老朽化の状況について

- ① 老朽化の状況は、数値が100%に近いほど法定耐用年数に近いことを表している。令和元年度の数値が43.13%となっており、類似団体に比べれば低いものの順次施設の更新を行っていく必要がある。
- ② 管路経年比率は類似団体と比較しても低くなっているが、法定耐用年数に近い管路もあることから順次更新を行っていく必要がある。
- ③ 管路更新率も近年類似団体と比較して低くなっているが、法定耐用年数に近い管路もあることから順次更新を行っていく必要がある。

### 全体総括

今後の事業運営においては、これまでの水需要動向等を勘案すると、給水収益が減少傾向で推移するものと見込まれるなか、施設の更新及び企業債の償還等があり、今後の経営状況は、依然として厳しいものとなっている。  
また、今後は簡易水道との統合により、一時的に数値は悪化するが、料金体系の見直しや設備投資を計画的に行うことで、緩やかに、長期的に改善していけるよう努めたい。

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

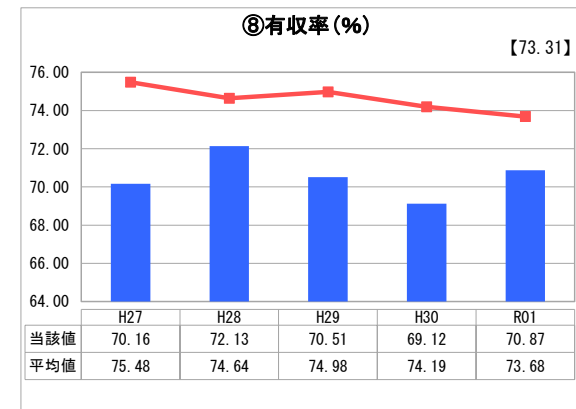
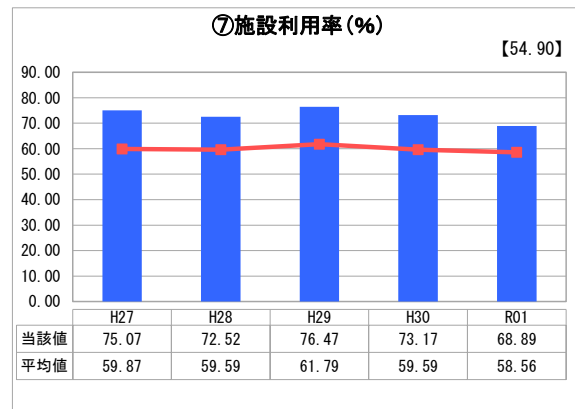
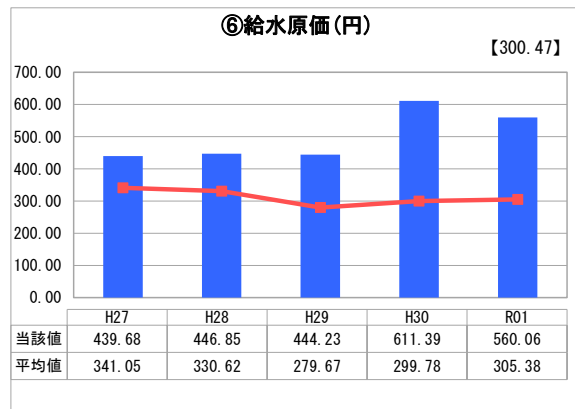
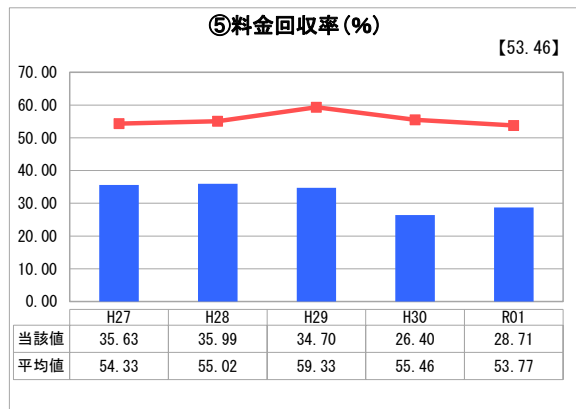
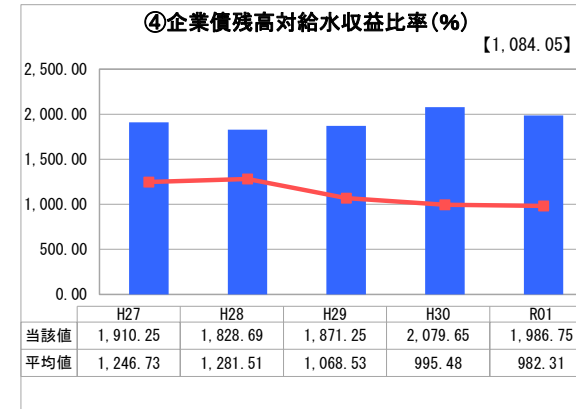
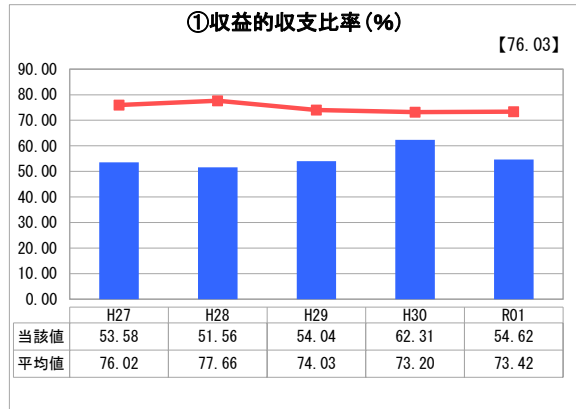
岡山県 新見市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	46.52	2,530	

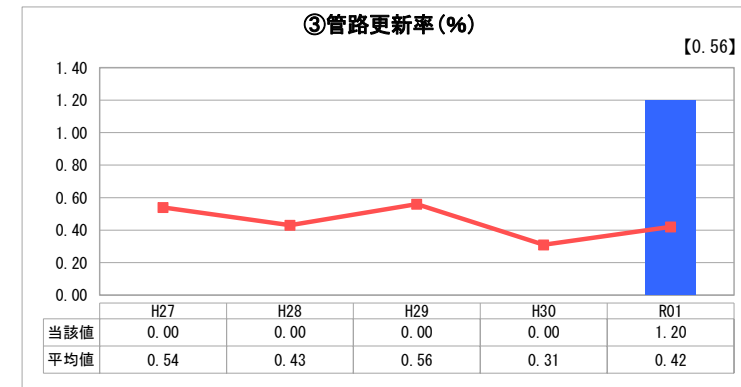
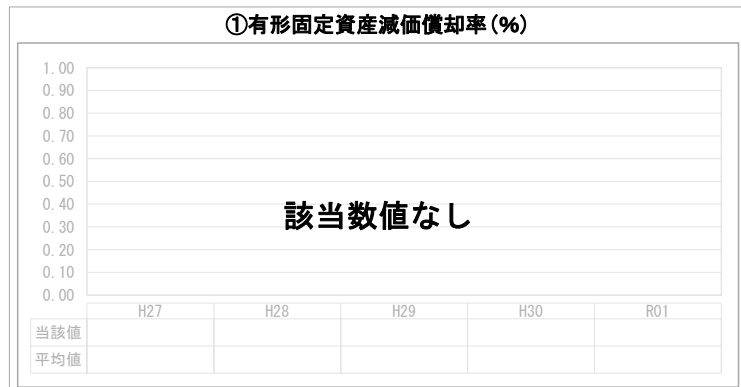
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
29,069	793.29	36.64
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
13,392	271.80	49.27

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- 収益的収支比率は、単年度の黒字を示す100%を大幅に下回っており、一般会計繰入金等の割合が非常に高くなっている。一般会計繰入金等の負担割合を抑えるため、料金回収率の向上に努める。
- 企業債残高対給水収益比率は、類似団体と比較し高くなっている。今後も、給水収益の減少及び施設更新の増加が予想されるため、比率は上がってくる。今後も、給水収益の減少及び施設更新の増加が予想されるため、比率は上がってくる。
- 料金回収率は、基準の100%を大幅に下回っており、不足分を一般会計繰入金により補填している。一般会計繰入金の負担割合を抑えるため、料金回収率の向上に努める。
- 給水原価は、平成29年度までは例年440円程度で推移していたが、平成30年度は平成29年度と比べて170円程度、平成31年度は平成29年度と比べて120円程度増加し、類似団体と比較すると、高くなっている。これは災害復旧による収益的支出の増加、有収水量の減少が要因である。
- 施設利用率は、類似団体と比較して高くなっている。引き続き漏水対策を行い、有収率の向上に努める。
- 有収率は、類似団体と比較して低くなっている。布設から40年以上経過する管路も増加しており、頻りに漏水が発生している。今後も漏水調査・修繕を積極的に行う。

### 2. 老朽化の状況について

市内25簡易水道の整備年限はそれぞれ違うが、布設後40年になる管路も多く、老朽化が著しく進み漏水なども頻りに発生している。従来は、施工の効率性から集落を短絡し山林などに埋設されていた配水管を道路に移設することや、下水道事業による水道管移設などによって、管路の更新を図ってきた。今後も漏水の発生を抑え管路更新率を上げるため、計画的に更新工事を行うことが必要と考えている。

### 全体総括

今後の事業運営においては、これまでの水需要動向等を勘案すると、給水収益が減少傾向で推移するものと見込まれる中、施設の更新及び企業債の償還等があり、今後の経営状況は、依然として厳しいものと考えている。

一方で、安全で清浄な水の安定供給をするためには、計画的な施設の更新を進めていく必要があることから、一層の経営努力を重ねるとともにサービスの向上に努めていく。